

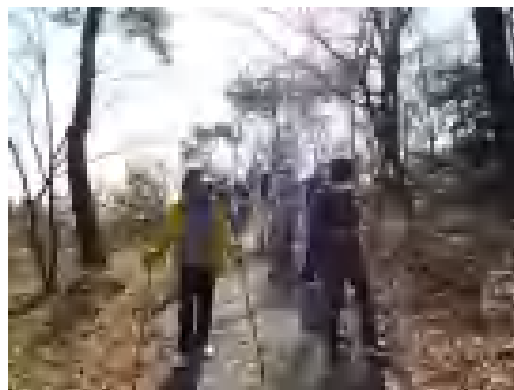
観音山だより

北部埼玉自然観察グループ

観音山春の観察会

3月25日(日)、熊谷観音山において春の観察会を開催しました。絶好の観察会日和に恵まれ、一般参加者5名、スタッフ5名の合計10名で早春の観音山を満喫しました。

芽吹き始めた木々を見ながら、気になるオレンジ色の芽吹きに近づくと、それがアカシデの雄花であることがわかり、「それじゃあ、雌花はどこ？」などと言いながら進みます。満開のヒサカキのムツとする匂いを嗅いだり、カラスとオオタカのバトルを見たり...



今日の目当ては、カタクリです。今年はサクラと同様、開花が早く、先週の下見ではすでにかなりの開花が確認されていました。その後の雨と気温上昇のおかげで、今日は満開で足の踏み場がないくらいです。龍泉寺裏の東側斜面の様子と、数年前に樹木伐採が行われた、かつて大群落のあった北側斜面の状況を比較してみました。

北側斜面は、大群落は影を潜め、サクラなどの樹木の下に、小規模な群落が残るという状況です。東側斜面は、昨春の樹木伐採の影響はまだ感じられず、斜面一面を覆う大群落です。しかし、今年の新芽の数を比較すると違いが出ました。北側斜面のものは、群落が縮小したにもかかわらず、今年の新芽はしっかり確認できましたが、東側斜面では、目を皿のようにして探しましたが、新芽はわずしか認められませんでした。容易に確認できる2年生、3年生と思われる個体の数と比較しても明らかに少ない状況です。参加者と一緒に、なぜそうなっているのかを考えてみました。

参加者からは、地表面の温度上昇や乾燥の進行、落ち葉が供給されないことや新たな競争相手の出現などが挙げられ、カタクリの生育環境が実に絶妙なバランスの上に成り立っていることをあらためて考える機会とすることができました。おそらく、長い目で見た時には、東側斜面の群落も、北側同様縮小方向を辿るのだろう、しかし私たちが、その状況の推移をしっかりと見守ることも大切なのではないかという声も挙げられました。

楽しいながらも、考えさせられる観察会となりました。

